

## 令和 4 年度福岡市歯科口腔保健推進協議会 書面開催記録

**1 開催日時**

令和 5 年 3 月 2 日～令和 5 年 3 月 2 9 日

**2 開催場所**

書面開催

**3 議事**

- ・福岡市民の歯科口腔保健の現状と課題について
  - (1) 福岡市歯科口腔保健推進の進捗状況について（報告）
  - (2) 福岡市歯科口腔保健関連事業の実施状況について（報告）
- ・本協議会について
  - (1) 令和 3 年度第 2 回協議会の開催結果について（報告）
- ・オーラルケア 28（にいはち）プロジェクトについて
  - (1) プロジェクトの記者発表について（報告）
  - (2) プロジェクト実施状況について（報告）
  - (3) 令和 5 年度の取組について（議案第 1 号）

**4 意見書意見****（福岡市養護教諭研究会：中山委員）**

令和 5 年度新規事業の乳幼児・学齢期（方針 I—1）保育園・幼稚園における集団介入でフッ素うがい導入を支援する提案について申し上げる。

WHO で 6 歳未満の子どものフッ素洗口は禁忌との見解が示されている。小中学生から考えても、保育園・幼稚園のこども集団が保育時間内に施設内で実施することは安全面から大変無理があると考えます。健康安全を考える養護教諭としては、薬剤による介入支援ではなく、多くの人数で工夫して歯みがき指導して欲しい。

また、推進協議会で新事業を決定する前に、福岡市の R5 年度予算案の項目に「フッ素うがい導入 説明会や薬剤の支給」支援実施とかかげられているのを見て驚いている。是非関係教育機関（幼稚園や保育園）の意見を聴いて頂き、再度考えて欲しい。

**5 意見調整****（山下会長意見）**

中山委員からいただいたご意見について、協議会設置要綱第 4 条第 4 項に基づき設置しているオーラルケア 28 プロジェクト等検討委員会（別表参照。以下「WG」という。）を招集し、専門的知見からの意見を徴すること。

**（WG意見）**

上記の会長意見を踏まえ、WGを令和 5 年 6 月 8 日に招集し、以下のとおり意見を取りまとめた。

(別表)

番号	区分	メンバー
1	関係団体	福岡市歯科医師会（歯科医師／永原 絹子）
2		福岡県歯科衛生士会（歯科衛生士／久保山 裕子）
3	学識経験者	九州大学（講師（歯科医師）／古田 美智子）
4		福岡歯科大学（教授（歯科医師）／永井 淳）
5	行政	福岡市（保健医療局口腔保健支援センター）

#### WG意見

協議会委員から、令和5年度新規事業の乳幼児・学齢期（方針I-1）「保育園・幼稚園における集団介入」事業についてご意見をいただいている件について、以下(1)～(3)の点から、ご指摘の事項は解消されているものとする。

(1) 「WHOで6歳未満の子どものフッ素洗口は禁忌との見解が示されている」とする点について

⇒ WHOが1994年のテクニカルレポート（Series No. 846、Fluorides and Oral Health）において、「6歳未満の就学前児童のフッ化物洗口について、標準的な洗口法ではフッ化物の口腔内残留量は少量であり、歯のフッ素症の原因にはならないが、他の経路から摂取されるフッ化物の総量によっては歯のフッ素症を増加させるかも知れない」ため推奨できないとしているが、以下a)～b)のとおり当該事業とは背景が異なる。

a) 上記レポートの背景となった研究（以下「研究」という。）では、毎回洗口液の全量を飲み込むと仮定して論じているのに対し、当該事業では、洗口液を吐き出すことが可能な子どものみを対象としている。加えて、開始前に歯科専門職より十分な説明を行い、施設及び保護者から同意を得たうえで、水道水を用いた洗口の練習後に実施する。

b) WHOのテクニカルレポートにある「他の経路から摂取されるフッ化物」とはフロリデーション（水道水のフッ素濃度調整）やフッ化物錠剤の服用などの全身応用（フッ化物を経口的に摂取し、むし歯を予防する方法）によって摂取されることを想定している。しかし、研究が行われた米国とは異なり、日本ではフッ化物の全身応用を行っていない。

また、厚生労働省から各都道府県知事宛に通知された「フッ化物洗口の推進に関する基本的な考え方（令和4年12月28日付医政発1228第7号ほか）」において、洗口の対象者を「とくに4歳から14歳までの期間に実施することがう蝕予防対策として最も大きな効果をもたらすことが示されている。」としていることから本事業の対象者年齢を決定しており、安全面に支障ないものとする。

(2) 「保育時間内に施設内で実施することは安全面から大変無理がある」とする点について

⇒説明会等を丁寧に行い、安全に実施可能と判断した園のみが参加する希望性の事業である。

(3) 「是非関係教育機関（幼稚園や保育園）の意見を聴いて頂き、再度考えて欲しい」とする点について

⇒予算成立前に、当該事業の実施主体として直接関係がある福岡市保育協会及び福岡市私立幼稚園連盟には個別にご説明し、当該事業の実施に賛同をいただいている。また、上述の通り本事業は希望性となっており、希望する教育機関の支援事業であり、各教育機関に強制するものではない。

## (山下会長意見)

当該事業は、福岡市の乳幼児・学齢期の歯科口腔保健推進に寄与するものであり、委員及びWGからの意見を踏まえ、施設や保護者などへ十分な説明を行い、理解を得たうえで安全に実施すること。

## (福岡市養護教諭研究会:中山委員)

WHOの1994年のテクニカルレポートについて、私が読んだ書籍(「必要ですか?虫歯にフッ素 フッ素問題を考える 11のQ&A」)には「飲料水フッ化物濃度の低い地域(0.3ppm以下)では、学校におけるフッ化物洗口とフッ化物配合歯の磨き剤については、磨き剤を使ったブラッシングが推奨されるが、その採用は地域のう蝕の状態と実施のコストに基づいてなされるべきである。フッ素洗口は6歳未満の子供たちには用いるべきではない。」と記載されていたことを申し添える。

実施にあたっては、山下会長様のご意見にあるように「施設や保護者などへ十分な説明を行い、理解を得たうえで安全に実施すること」に加え、誤飲を防ぐ等より安全な環境を保障するための人的支援についても要望する。

しかし、今の子どもたちのむし歯は確実に減少しており、教育等施設で一斉にフッ化物を用いて予防する必要はないのではないかと感じる。

健康格差が存在するのは事実だが、それを解消するのは教育等施設ですべての子どもに対して行うフッ化物応用ではなく、個人への対応ではないかと考える。

最後に、3月の書面開催時にも記載したが、歯科口腔保健推進に関わる令和5年度の新規事業計画案・予算案が、この推進協議会で協議される以前に公表されたことについて、ご説明いただきたい。

## (WG意見)

誤飲を防ぐ等の安全な環境を保障するための人的支援に関する要望については、現行の体制で安全に実施可能と判断する施設が手挙げで参加する事業であることから、人的支援については想定していない。

「今の子どもたちのむし歯は確実に減少しており、教育等施設で一斉にフッ化物を用いて予防する必要はないのか」というご意見については、近年、子どもたちのむし歯が全体で見ると減少傾向にあることは事実であるが、多数の歯にむし歯がある子どもは依然として一定数存在することから、さらなるむし歯の減少等を目的とした本事業は意義があると考えられる。これまでのむし歯の減少の理由としては、生活習慣の改善やフッ化物配合歯磨剤の普及が考えられているが、これらの個人対策のケアは、様々な家庭の事情によって大きな影響を受ける。一方で、集団で実施するフッ化物洗口では、家庭環境によらないむし歯予防の効果が得られるとされており、健康格差の減少に繋がることが期待される。実際に、3歳児では全国平均よりもむし歯が多かった地域が、集団でフッ化物洗口を実施したことによって9年後の12歳児の時点ではむし歯が少ない地域となっており、さらにむし歯の健康格差も改善したと報告されている(Journal of Epidemiology, 2016;26: 563-571)。

「健康格差が存在するのは事実だが、それを解消するのは教育等施設ですべての子どもに対して行うフッ化物応用ではなく、個人への対応ではないか」というご意見に関しては、上述に加え、厚生労働省通知の「フッ化物洗口の推進に関する基本的な考え方」において、健康格差の縮小や生涯を通じたう蝕予防の取り組みの一環として、適切なフッ化物洗口を継続的に実施することが必要であると示されている。この考え方と、アクションプランにおける取組の方針「(I-1)パブリックケアの強化」に基づいて本件事業を企画している。

## (山下会長意見)

歯科口腔保健推進に関わる令和5年度の新規事業計画案・予算案が、この推進協議会で協議される以前に公表されたことについては、協議会に諮りながら策定したオーラルケア28プロジェクトアクションプランのP8「推進・評価体制」に記載のとおり、同プロジェクトは、WGを中心に推進し、適宜、協議会へ報告することとされている。従って、本件新規事業においても、同プロジェクトの推進を一任されているWGにおいて検討のうえ、企画・公表している。

事業の企画から公表までの時期は事業ごとに異なり、各事業の公表前に、都度、協議会を開催して報告を行うことは困難であることから、円滑なプロジェクト推進のため、協議会要綱第4条第4項に基づき専門部会としてWGを設置しているところなので、ご理解いただきたい。